

問題を「自分ごと」化する

新型コロナウイルス感染症が発生して2年。私たちの生活は大きく変わりました。誰もがマスクを着けて街を歩く姿は、わずか2年前にはひどく異様に見えていたのに、今ではそれに違和感を持つ人はいません。手指の消毒も当たり前になり、咳やくしゃみを公共の場でするものはばかられるような空気さえ生まれました。ここまで対応が徹底したのはなぜでしょうか。日本人が社会のルールをよく守る国民性だから、ということもあるでしょう。

しかし、私は何よりも、誰もが新型コロナを自分自身の問題として意識したからだと思っています。自分に害が及ぶかもしれない、自分が感染したら周囲に迷惑を掛けてしまう、というように問題を「自分ごと」化したからこそ、これだけルールが守られたのだと思うのです。裏返せば、自分に関係なければ関心はない、ということでもあります。2021年は、東日本大震災から10年、雲仙普賢岳の大火砕流災害から30年の年であり、

多くの報道がありました。しかし、たとえ世界史に残るような災害であっても、被害や影響が直接及ばなければ、私たちは無意識のうちに「ひとごと」と受け取ってはいないでしょうか。もし、これが自分に降りかかってきたら、自分に影響が及ぶのであれば、と問題に向

き合うことで思考は深まり、視野が広がります。そして、私たちは問題が自分ごとになれば、期待以上の力を発揮するものなのです。

長崎大学は、2020年に「プラネタリーヘルスの実現」を目標として掲げました。今や、地球と生物の存続を危うくするさまざまな問題が複雑に絡み

合って進行しており、それをどう解決していくのか、知の挑戦が始まっています。そのスタートラインに立てるのは、問題の「自分ごと」化ができる人材です。コロナ禍の中で高校生活を過ごすことになった皆さんは、ぜひその教訓として、問題を自分ごと化する意識を身に付けてほしいと思います。



河野 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.78

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌 Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	問題を「自分ごと」化する	1	表紙のはなし
特集	My 研究室 Life Vol.3	2	
	-5学部5色の学び方 学部生・大学院生編-		
	多文化社会学部	3	
	経済学部	7	
	医学部保健学科	11	
	歯学部	15	
	情報データ科学部	19	
Information	入学試験情報 クイズ&編集後記	21	今回の表紙モデルは経済学部4年の日高璃子さん。慣れ親しんだ片淵キャンパスで、撮影に臨んでくれました。終了後、中庭に出てみると紅葉がきれいに色づいていました。「街中なのにこんな景色が見られるんですよ。大好きな場所です」。そう話す日高さんは、この春、たくさんの思い出を胸にキャンパスを旅立ちます。